

2022 年度 関西学院幼稚園 学校評価を終えて

関西学院では、幼稚園から大学院まで連なる総合学園である強みを活かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施しています。併設する学校の教員に、専門的な視点からの意見を聞くことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、関西学院幼稚園の学校評価が、学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので公表いたします。

関西学院幼稚園は、子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を実践しています。そこで、2022 年度の学校評価におきましても、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”についての質問を、「学院共通項目」として、そして「キリスト教主義教育」を評価項目に選定しました。また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導」「教育環境整備」「保護者との連携」、そして、「保健管理」と「新型コロナウイルス感染症対策」の評価項目を一体化し、園児の安全対策をとりつつ行う教育の充実の模索のため、「安全管理（新型コロナウイルス感染症対策）」を設定しました。

評価の実施に当たっては、各項目について保護者・教員にアンケート調査を行い、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員による保育実践・施設の参観、意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、保護者 105.9%（216/204）、教諭 100.0%（16/16）となっております。（※なお、今年度のアンケートでは、保護者を対象としたアンケートにおいて重複回答したケースが複数ありました。対応を検討した結果、対象回答の特定が困難なため、対象数を超過した回答数をそのまま用いて学校評価の取組みを進めることとしました。そのため、保護者の回答率が 100%を超過しています。）

今年度は、「教育理念・使命・目標」「評価項目」を説明し、各評価項目で「目標」を立て、「具体的な取組の状況とその効果に対する評価」を行い、「今後の方策」を示し、自己点検・評価としました。また、関西学院大学教育学部教員、聖和短期大学教員の評価者に普段の保育を参観していただき、ありのままの本園の教育を知っていただき、その方々のご意見も合わせて関西学院幼稚園の学校評価としてまとめています。

関西学院幼稚園は学校評価を通じて、自らその課題を探り、その課題に向き合い、誠実に対応し、より質の高い保育を目指していきます。

今後も一人ひとりの子どもたちが、愛されている自分を実感し、友だち・保育者と共に認め合い、力を合わせることの楽しさ、喜びを味わうプロセスを大切にするキリスト教主義による幼児教育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育の実践を行いたいと考えております。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

2023 年 4 月 14 日
関西学院幼稚園
園長 赤木 敏之

学校評価

教育理念・使命・目標

＜建学の精神＞

聖書に示された世界観・教育観・子ども観をもって、キリスト教主義による教育・保育を実践している。子どもたち一人一人は、神様に愛されている存在として、慈しみ育てることを使命としている。子どもを中心に据えた教育・保育は、一貫した流れの中で受け継がれている。

＜教育方針＞

○子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって示された神様の愛に気づき、自らがかけがえのない存在であることを知り、喜びと感謝をもって過ごす。

○お互いの個性や多様性を認め合い、自主性、創造性を発揮して共に育ちあう。

○神様の創造された自然の中で心と体を存分に使って遊び、健康的な心身を育み、豊かな感性を培う。

これらの教育方針に基づいて、教員は神、イエス・キリストとの交わりによって支えられ、意図的、継続的、反省的な努力、配慮をもって子どもたちと共に学び、成長する存在でありたいと願って保育を行っている。また、遊びを中心とした保育を実践し、子どもたちの心の育ちを支え導く援助を心掛けている。

2022 年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育→ 本園の教育の根幹となるため毎年の評価項目に選定。
- ・教育課程・指導→ 重要項目であり、経年変化を図るため毎年の評価項目に選定。
- ・教育環境整備→ 園児が遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため毎年の評価項目に選定。
- ・保護者との連携→ 園児の健やかな育ちのためには保護者との連携は不可欠であるため毎年の評価項目に選定。
- ・安全管理（新型コロナウイルス感染症対策）→ 園児の安全対策をとりつつ行う教育の充実のため、評価項目に選定。

2022 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義教育の理念の共有、キリスト教主義教育の根幹である愛情を感じられる教育の実践】	自己評価	B
目標	○教員間でキリスト教主義教育の理念の共通理解に努める ○園児の発達・個性を把握して、一人ひとりが愛されていると感じられる保育をする ○園児が自分と他者との違いを知り、理解し合い、「共に生きる」ことを学べる保育をする		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	（具体的な取組の状況） ・教員は、神様から命を与えられ、愛されているかけがえのない園児一人ひとりを、ありのままに受け止め、愛情を持ってキリスト教主義教育・保育を行っている。 ・教員は、園児が生活や遊び、活動をする中で、自分と他者との違いを知り、お互いに個性や多様性を認め合って共に育つことができるように援助をしている。また、自分のことだけではなく周りの友達や家族、他者を思う関わりを大切に考えられるように必要に応じて対話し、園児に働きかけている。関西学院		

のスクールモットー“Mastery for Service”の基礎となる教育を大切にしている。

- ・教員は、園児の個性や発達を理解し、一人ひとりが様々な遊びや活動に主体的に、喜びをもって取り組めるように援助を行っている。
- ・教員は、園児の成長を捉える際に「できる・できない」といった評価や結果だけに捉われず、園児の内面(意欲、満足感、葛藤など)の動きや変化に目を向け、その過程を大切にしている。
- ・毎日、保育の中で各クラスで礼拝を行っている。身近な季節の自然物や自然現象の話題から、神様が与えてくださる恵みに気づき、喜びと感謝をもてるように祈る時を大切にしている。また、欠席の園児のことをはじめ、友達や家族、他者を思って祈ることも大切にしている。保護者にも礼拝や幼稚園で大切にしていることが伝わるように、配布物や降園時の伝達より理解を深めていけるよう努めている。
- ・土曜日には各学年ごとに月2回、(年間年少組17回、年中組18回、年長組18回)聖書のお話を聞き、さんびかを歌い、献金を捧げ、共に祈る時間をもっている。その際、保育室、ホール、隣接する西宮聖和キャンパス内にあるダッドレーチャペルを使用して礼拝を行っている。平日には、定期的に年長組は学年で集まり、年中組・年少組は各クラスで聖書のお話を聞く礼拝を行っている。
- ・花の日礼拝では、各家庭から花を持ち寄り、年長組は隣接する西宮聖和キャンパス内にあるメアリーザベラランバスチャペルを使用して、保護者と共に礼拝を行った。また、年中組・年少組は園児と教員で各クラスにて礼拝を行った。収穫感謝礼拝では各家庭から果物を持ち寄り、年長組は学年で集合しホールにて、年中組・年少組は園児と教員で各クラスにて礼拝を行った。また、持ち寄った花や果物は、日頃お世話になっている大学の教職員の方々と分かち合うために園児が直接届ける機会をもち、神様から与えられている恵みや喜びを共有する機会となった。
- ・11月には、クリスマス準備保護者会を人数を制限して開催した。講師の聖和短期大学宗教主事の、小見のぞみ先生によるお話を通して、キリスト教主義教育、クリスマスについての理解を深めてもらう機会を設けた。その際、年少組保護者は対面で、年中組・年長組保護者にはビデオ視聴をいただいた。
- ・クリスマスには、年長組が各クラスでページェント(聖劇)に取り組み、当日は、年長組保護者、来賓の方と共にクリスマスを祝う喜びの礼拝を行った。
- ・1月には、阪神淡路大震災から28年が経ったことを覚えて礼拝を行い、保護者へも防災・減災の意識をもっていただく機会となった。
- ・教員は、毎朝に祈祷会を行い、賛美と祈りをもって一日を始めている。共に祈る中で、キリスト教主義教育の理解につながる願いを共有している。

(取組の効果に対する評価)

- ・保護者アンケートからは、問3「幼稚園はキリスト教主義教育の考え方を、保護者と共有している。(日々の保育の伝達、礼拝、保護者会、手紙等)」について、「強くそう思う」が80.1%(前年比8.9%増)、「どちらかといえばそう思う」が19.0%(前年比9.8%減)となった。これは、キリスト教主義教育の理解につながるよう保護者への働きかけの取組が結果へとつながった部分があったと言える。
- ・今年度より、保護者アンケートの新たな質問、問5「幼稚園は、友だち同士が認め合い、力を合わせる楽しさ、喜びを味わうまでの「プロセス」を大切に保育をしている。」を加えた。「強くそう思う」が77.8%、「どちらかといえばそ

	う思う」が 20.4%との回答を得た。園児の個々の育ちの面と、集団生活での育ちのプロセスを大切にしている保育への共感が得られていると考えられる。しかし、1.9%が「あまりそう思わない」との回答があったことは忘れてはならない。 ・昨年度の教員アンケートでは、研修・会議における教育理念を共有する場づくりや、経験差による理解の相違を防ぐための細やかな打ち合わせ、省察、対話を続けてきた結果が表れ、キリスト教主義教育について教員同士で共通理解が深まることにつながっていた。しかし、今年度の教員アンケートからは、問 1「教員は、キリスト教主義教育の理念を共有している。」について、「強くそう思う」が 68.8% (前年比 17.9%減)、「どちらかといえばそう思う」が 25.0% (前年比 11.7%増)、「あまりそう思わない」が 6.3%という回答を得た。これは、教員の人員の移り変わりの影響をはじめ、教員個々の保育経験の差異を配慮した取組、対話を通しての理念の共有が、十分ではなかったことが考えられる。
今後の方策	・引き続き、園児が愛情を感じられるような保育を教員全員で行っていく。また、保護者のキリスト教保育に関する理解も得られるように、家庭通信(園児の姿・園として大切にしている視点等)やお知らせボード、園児連絡アプリ・Instagram の活用(保育の記録や動画配信含む)、日々の保護者との対話を丁寧に行っていく。 ・新型コロナウイルス感染状況に留意し、感染予防対策に講じながら、保護者の礼拝参加の機会を出来る限り設けていく。 ・新任教員の教育理念を共有する場づくりをはじめ、新しい構成員で保育や援助の省察をクラスや学年、全体で共有できるようにし、教員のキリスト教主義教育に関する共通理解を深めていけるように努める。 ・教員全体で聖書や保育冊子「キリスト教保育」を読む機会や(個人で各自読む機会をもっているが)、本園の教育理念を園児の姿と合わせて話し合う機会を増やし、保育の質向上につなげていく。

評価項目 【テーマ】	教育課程・指導 【各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助】(重点)	自己評価	A
目標	○園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する ○園児が集団の中で、互いに違いに気づき、理解し合えるように援助する		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) ・年間指導計画、学年毎の月案、クラス毎の週案、個人記録、日案について、園児一人ひとりの発達段階や育ちなどを考察、省察している。 ・教員は、園児の育ちが個々から集団へと繋がるように、クラス全体で様々な活動に意欲的に取り組めるように援助している。また、園生活だけでなく、保護者と連携し家庭でも意欲や主体性に繋がるようにしている。 ・教員は日々、園での取組やねらいなどを保護者と共有するために、降園時や懇談会において園児の姿や活動、それらに付随した願いを伝えている。また、保護者の考えや願いを踏まえ、より具体的に園児が集団生活をおくる中で育まれる力や成長、変化などを共有している。 ・教員は、それぞれの個性を受け止め、園児が互いの違いに気づき、理解し合い、友だちや教員と共にいる喜びや安心感をもって過ごせるようにしている。 ・教員は年齢や発達に合った教材を熟考して準備し、園児が自主的に物的環境に関われるようにしている。また、教員は人的環境として、園児が興味関心を深		

	め主体的に活動を展開していけるように援助を行っている。 ・日々、園児一人ひとりの姿や育ちについて教員間で話し合い、成長が積み上がっていくように努めている。また、各学年の活動について、ねらいや発達、経験などを省察し、教員の会議で共有して連携している。年度末には個人の育ちや願いを引き継ぎ共有している。 ・新人教員が増える中で、意識的に教員間で話し合い考えあう機会を持ち、話し合うことが自然な雰囲気で行えるようにすることを大切にしている。そのことが結果的に子どもの育ちや成長に繋がると考えている。また、視覚的にもイメージを共有できるように iPad などを使用し動画や写真を使って伝えている。 (取組の効果に対する評価) ・保護者アンケートからは、問 7「幼稚園は、子どもたちの育ちに応じた保育プログラムを実践し、個人に添った援助を行っている。」に「強くそう思う」と答えたのが 69.4% (前年比 10.2%増)、「あまりそう思わない」が 2.3%となった。この結果は、日々の保育の中で、皆が意欲的に取り組めるように一人ひとりの発達や状況を考慮し、保育内容を教員全員で様々な意見を出し合っていることが繋がっていると考ええる。また、サークル活動や、一日サークルなどの活動が少しずつ再開してきたこと、行事などもコロナ前の状況に戻りつつあることなど保護者が子どもたちの様子を直接目にする機会が増えたことが大きく作用していると考えられる。 ・教員アンケートからは、問 4「幼稚園は、園児一人ひとりの興味・関心を高め、主体的・意欲的に活動できるように保育をしている。」に、「強くそう思う」の回答が 87.5%となった。また、問 5「幼稚園は、園児の育ちに応じた保育プログラムを実施し、個人に沿った援助を行っている。」に関しては「強くそう思う」の回答が 81.3%となった。これらの結果は、毎月の園内研修や日々の保育後で考えを伝え合ったり、話し合うことを習慣化できるようにそれぞれが意識していることが繋がっていると考ええる。
今後の方策	・保護者が子どもたちの様子を直接目にする機会がコロナ前の状況に戻りつつあることで増えたことが、保護者からの評価に大きく作用していると考えられるため、コロナの情勢を見ながら今後も保護者が参観できる機会や場を設けることを積極的に考えていき、視覚的に保護者が保育を目にする場を増やせるよう検討していく。 ・教員の学びのために、教員間で話し合うだけでなく、園内研修などで園児について心理士の意見や考えを直接的に聞いたり、話し合う場を増やすことでさらに専門性を高めていくことなども検討する。

評価項目 【テーマ】	教育環境整備 【設備整備、遊具・教材の充実、教員の教育・研究環境の整備】	自己評価	B
目標	○法人と連携した設備整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う ○法人と連携して子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う ○教員の教育、研究のための環境の充実を行う		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) ・園児の活動の充実の為、様々なハーブ（ラベンダー、ミント、マロウ、カレープラント、ゼラニウム、ローズマリー、レモンバーム等）を栽培し、保育室・デッキなどには季節の花々を飾っている（ベゴニア、ゼラニウム、キキョウ、		

	シコンノボタン、ナデシコ、シクラメン、ポインセチア等)。また、園児が、植物の生長を身近に感じたり、栽培した野菜を収穫して食したりできるように、各学年で植物を栽培している（年間約 400ℓの土購入）。 年少組）つるなしインゲン 年中組）ナス、ピーマン 年長組）トウモロコシ、ヒマワリ、フウセンカズラ、ナス、ヘチマ、オクラ、パプリカ、カブ、ダイコン 全学年）チューリップ、ヒヤシンス、クロッカス ・自然豊かな園庭の環境維持の為、教員は水やり、追肥、草抜き、間引きを行うと共に教育的配慮を持ちつつ植物の育ちも考慮して、施設課に相談し、樹木の剪定・伐採等をし、環境整備に努めている（年1～3回）。 ・園児が、より自然に興味関心を持ち生き物の飼育を通して命の尊さが感じられるように各保育室では、生き物を飼育している。 （アカハライモリ、メダカ、モロコ、金魚、ヌマエビ、ドジョウ、ザリガニ、タニシ、カタツムリ、カブトムシなど） ・日本の伝統的行事や季節に応じた装飾をしている。 4、5月）五月人形、鯉のぼり、カーネーション（母の日） 7月）七夕（笹飾り）11、12月）クリスマスツリー、アドベントカレンダー、クリスマスの窓飾り、リース、アドベントクランツ （12月には、園児にアドベントカレンダーを配布している） ・春休み、夏休み中などの保育を行っていない時期に、教員で園庭・デッキの木製遊具（小屋4棟、トンネル、六角デッキ、雲梯、平行棒、机など）に柿渋塗布（防水防腐防虫）を行っている。また、学期末には各学年で計画して園児、教員で、園庭倉庫内の掃除をしたり、日常的に使っている遊具を洗ったり、年長児は保育室の掃除を自主的に行っている。 ・ホール、職員室、保育室のワックス塗布が行われ（年1回）、デッキのワックスがけは教員が行っている（年2回）。 ・教員は、園庭の池の環境維持を日々行い、年度当初には園庭にある糞所（65か所）の掃除を行っている（泥、砂、落ち葉の除去など）。 ・嫌気性細菌の増殖を防ぐ為、教員で砂場（2か所）、腐葉土の掘り起こしを行っている（週1回）。 ・毎日、保育開始前には、園庭・遊具の安全確認を行っている。また、随時施設課や聖和キャンパス事務室と連絡をとり、環境の保全に努めている。 修繕箇所）園庭時計、男性用小便器（2回）、保育室小便器（2回）、保育室お手洗い扉（3か所）、給湯室棚、厨房設置コンロ及びブラインド、換気扇（2か所）、ロールカーテン（4か所）、電子錠、小屋の屋根、ツリーハウス階段、池ポンプ、トランポリンネット、ピロティガラス、排煙窓周辺（6か所）など ・保守点検を行っている。 消防点検（2回）、屋上点検（7回）、防犯カメラ点検、ガス点検、防ダニ防鼠作業 ・火災報知器の誤作動（2回）があり、1階保育室（教材室を含む）火災報知器（12か所）を取り換えた。 ・自然環境が豊かな園庭であるため、イラガ、ムカデ、スズメバチなどの危険な虫が見られた際は、園児の安全に配慮し、必要に応じた対応をしている（今年度はハチの巣、カラスの巣撤去）。 ・年度当初に、各学年の活動の充実をはかる為、教材・遊具を購入した。 年少組）木製汽車部品（2セット）、汽車（8両）動物フィギュア（12体）
--	---

- 年長組) カードゲーム (2 種)、パズル (6 セット)
- ・各学年「福音館書店の月刊絵本」を定期購入し (全 100 冊)、
(こどものとも 0、1、2) (こどものとも年少版) (こどものとも年中向き)
(こどものとも) (ちいさなかがくのとも) (月刊かがくのとも)
(たくさんのふしぎ)
「ひよこはにげます」(他 6 冊)「かこさとしの地球科学絵本」(全 6 冊)
「わにわにのえほん 5 冊セット」(2 セット) 購入した。
- ・各保育室 (9 部屋)、ホールのピアノの調律を行った。
- ・芋ほりを行う為、「紅はるか」(500 本)、安納芋 (30 本)、パープルスイート
ロード (30 本) の苗を購入。畑には一部、草の繁茂を防ぐためのシートを張っ
た。親子での苗植え後に、園児・保護者・教員で日々、水やりや草抜きを行い、
サツマイモの栽培の過程を経験し、秋には収穫の喜びを分かち合う機会を持つ
ことができた。
- ・クリスマスには、プレゼント製作用材料を教員で検討し、購入した。(木材、リ
ボン、布類、ビーズ類、包装紙等)
- ・「令和 4 年度 私立幼稚園教員子育て支援研修」に参加。
(主催: 一般社団法人 兵庫県私立幼稚園協会)
「カリキュラム・マネジメントについて」
鳴門教育大学教授 木下光二氏
「誕生からの乳幼児の育ちを支える保育者の専門性」
神戸大学大学院教授 北野幸子氏
- ・「令和 4 年度 西宮市私立幼稚園連合会 設置者・園長・教諭研修会」に参加。
(主催: 西宮市私立幼稚園連合会)
「幼児教育における自然教育の重要性」
むぎの穂保育園 出原大氏
- ・園内研修会 (月 1 回) を実施している。

(取組の効果に対する評価)

- ・保護者アンケートでは、問 9「幼稚園は、補修・修繕等を含めた教育環境設備
の点検、整備を適切に行っている。」に関して、64.4%が「強くそう思う」、33.8%
が「どちらかといえばそう思う」という結果になった。これは、日々、教員が
園庭・デッキ・保育室・遊具の安全を確認し、補修が必要な場合であり、尚且
つ教員が対処できるところは行い、それが難しい場合は、施設課に報告、連絡
した上で修繕等を迅速に行っていることへの評価である。また、日頃の保育環
境を保護者自身が目にしており、幼稚園の教育環境に、少なからず賛同してい
ることが窺える。
- ・教員アンケートでは、問 9「幼稚園は、教員の教育・研究の為の環境 (学会・研
修会への参加も含む) づくりに努めている。」に、「強くそう思う」が 56.3%、
「どちらかといえばそう思う」が 25.0%という結果になった。研修会では子ど
もや保育に関わる様々な事柄に対して学びを深めている。また、教師会では園
児に関する事や日々の保育や行事にまつわることなどが話し合われており、同
じ学年に携わる教員においては、月のカリキュラムを元に、保育について共に
考え合い、園児の育ちについてもある程度は情報を共有している。しかし、他
学年の教員や預かり保育担当の教員との情報共有は、短い時間の伝達であつた
り、記録を読んだりすることで行われており、十分とは言えない。近年では園
内研修の回数が増えたとはいえ、幼稚園の求める質の高い保育や園児一人ひと
りの育ちに即した保育を行なう上では、妥協できない教員の意識の高さが表れ

	ている。
今後の方策	・教員による毎日の設備整備の点検を行うと共に、引き続き法人との連携を円滑に行う。 ・園児の活動を充実させる為に、教員同士で話し合い、園児に適した遊具・教材を検討する。 ・教員の勤務時間の違いはあるが、教師会や園内研修などの会議体だけでなく、教員個人が、相互に園児について話し合う時間をもつ努力をする。

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【信頼関係を深め園児の育ちについて共に考える】（重点）	自己評価	B
目標	○園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願い、家庭との連携を図る		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	（具体的な取組の状況） ・日々の保護者とのコミュニケーションを大切にし、登降園時に保護者一人ひとりと園児の様子について丁寧に話し合う場を持つようにしている。園児の些細な出来事から仲間関係の変移、成長発達等、保護者の安心につながるように伝えている。 ・降園時に保護者の方に向けてクラスの様子や、園児の育ち、園の願いなどを日常的に伝えている。近年、預かり保育利用の増加に伴い、保護者の方全員に伝えにくくなっていることから、降園時だけでなく登園の際にも時間を見つけて話をしている。 ・昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のために家庭訪問は中止したが、4月にZoomを活用しオンラインによる個人懇談を行った。保護者の方から園児の家庭での様子をお聞きし、園での援助や対応について話し合うことができた。 ・7月には、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しクラス懇談会を対面で行った。園児一人ひとりの個の育ちだけでなく、集団における他者との関係性の中で育まれる心の変容についても考え合う機会となった。 ・学期ごとに参観日を設け、園児の様子を見てもらうなかで、保護者一人ひとりと園児の今の育ちとこれからの見通しについて話し合うことができた。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策に努めた上で、花の日礼拝や夕涼み会、運動会等、昨年度よりも保護者参加の枠を広げ、行事を行うことができた。より多くの保護者の方に園の様子を知ってもらう機会となり、家族で共に喜びをもって過ごす時が持てた。 ・欠席が続いた園児の家庭には電話をして体調や様子を確認している。併せて、園からの連絡事項や他児が心配していた等のエピソードを伝え、保護者の方の安心につながるよう努めている。 ・園児のより良い育ちにつながるよう各クラスより役員を選出し、保護者会活動を行っている。また、今年度より昨年度まで休止していた保護者会サークル活動を再開し、保護者が子育てに心のゆとりを持ち、心身の健康が保たれるようにした。 ・正門のボードに季節の話題や園児の姿などを毎日記入し、保護者が興味を持って園生活への理解につながるようにしている。 ・保護者へ情報を発信するために、園児連絡アプリやInstagramを活用し、写真や動画で園生活の様子を伝えた。今年度より数人の教員でInstagramを担当し、園児の遊びの様子や保育環境、園庭の自然物等を積極的に投稿した。		

	(取組の効果に対する評価) ・保護者アンケートからは問 11「幼稚園は、日頃から子どもたちの様子を保護者に伝え、また、保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して「強くそう思う」が 70.4%、「どちらかといえばそう思う」が 25.5%となった。近年新型コロナウイルス感染症拡大により、保護者とのコミュニケーションが取りにくくなっていたが、Zoom を活用したオンラインによる個人懇談や、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底した上での保護者参加行事が増えたことにより、昨年度よりも肯定的な回答が得られた。一方で「あまりそう思わない」が 3.7%、「そう思わない」が 0.5%となっていることも忘れてはならない。教員アンケートからは、問 10「幼稚園は、日頃から園児の様子を保護者に伝え、また保護者からの話を聞き、共に子どもの育ちを支えている。」に関して「強くそう思う」が 87.5%、「どちらかといえばそう思う」が 12.5%となり、肯定的な回答が得られた。
今後の方策	・保護者の安心につながるよう引き続き密にコミュニケーションを取り、園児の様子や、幼稚園が何に価値を置いて保育をしているかについて、保護者との対話を積み重ねていく。 ・今年度は Instagram を活用し保護者への情報発信を昨年度以上に試みたが、個人が特定されるような写真の掲載を控えているため、行事に関する投稿ばかりに偏ってしまった。今後は各クラス単位でも園児連絡アプリ等を活用し、保育内容や遊びの環境、教育的意義について発信できるように努める。 ・保護者のニーズに応えるだけでなく、教員と保護者が園児の育ちを中心に考え、思いを共有する場づくりを心掛ける。今後も教員から保護者に働きかけ、園児の育ちを共に支える関係性を深める。

評価項目 【テーマ】	安全管理（新型コロナウイルス感染症対策） 【日常の健康管理、疾病予防の取組、園医との連携による健康管理・疾病予防の取組、新型コロナウイルス感染症予防への取組】	自己評価	A+
目標	○園児一人ひとりの健康状態を把握し、疾病予防に努める ○教員の対応できない怪我、疾病等について園医に相談して最善の対応をする ○新型コロナウイルス感染症の感染予防に努める		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	(具体的な取組の状況) ・園児の身体や精神に関わること（アレルギー、既往歴、痙攣、発達障害、肢体不自由等）について教員間で共有している。また、必要に応じて園医や心理士にも相談し、対応・援助について適宜話し合っている。 ・園医による健康診断、歯科検診を行っている。また、教員による身体測定を毎月行っている。 ・毎朝園庭を見回り、危険な場所やものがないかを確認している。また、保育室やデッキなど園内で不具合が見つかった場合も、修繕・撤去するなどして安全を確保している。 ・台風が来る前には危険なものは室内に移動するなどの対策をとっている。 ・年に 4 回の避難訓練（火災（室内）・地震（室内・屋外）、預かり保育（地震））を行っている。また、避難訓練をきっかけに家庭でも防災意識を高めてもらえるように保護者に話をしている。 ・保育中の園児の体調不良・怪我に対し、教員の対応だけでなく状況に応じて学院の看護師に診てもらい、応急処置を行っている。		

- ・園医による「ほけんだより」を発行し、保護者の疾病予防や健康的な生活に対する意識が高くなるようにきっかけづくりをしている。
- ・教員・保護者は園内では不織布マスクを着用し、新型コロナウイルス感染予防に努めている。
- ・教員は毎朝検温を行い、園児は検温と体調を記入する「健康状態チェック表」を毎朝登園時に提出して健康管理・感染対策を行っている。
- ・教員は登園時に園児の視診を行い、心身の状態の把握に努め、保護者とも連携を図っている。
- ・教員は園児の体調の変化に気を配り、変化があれば検温するなどしてすぐに保護者に連絡している。また、早退・降園後の園児の体調について保護者に連絡をとり確認している。
- ・絵本の貸し出し（週 1 回）の返却時には絵本を預かり、24 時間経過してから絵本棚に戻している。
- ・園児が使用した遊具・玩具は必要に応じてアルコール消毒を行っている。
- ・園児自身が健康に過ごせるように意識を持ち、手洗い・アルコール消毒を行えるようにしている。
- ・食事の際には、同一方向を向いて座り、会話を控え感染予防に努めている。
- ・分散降園（前半クラスの 30 分後に後半クラスが降園）を行い、降園時には、保護者は保育室には入らずデッキで連絡事項を伝え、密になる環境を作らないように配慮している。
- ・文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」や「感染拡大防止のための効果的な換気について【新型コロナウイルス感染症対策分科会】」に準じて、保育室やホールの換気を行い、CO2 モニターを用いて二酸化炭素濃度を計測し、他クラスとの交流や保護者参加の行事、サークル活動などにも対応している。
- ・保護者参加行事の際に、椅子を置く間隔を 1m 以上開けている。
- ・家庭訪問は Zoom で行い、個人懇談会、入園面接などでは、飛沫防止のための衝立を使用している。
- ・学級閉鎖や園児の自宅待機などは、文部科学省の基準に準じて関西学院の対策本部で協議し、現状に合わせて変化させている。
- ・無断欠席者に対しては、園から連絡を取り確認の徹底を行っている。

（取組の効果に対する評価）

- ・保護者アンケート問 13「幼稚園は、子どもたち一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」に対して、「強くそう思う」が 62.5%（前年比 8.6%増）、「どちらかといえばそう思う」が 35.2%となった。また、教員アンケートからは、問 12「幼稚園は、園児一人ひとりの表情や様子等から体調変化に気づき、把握に努めている。」に対して、「強くそう思う」が 87.5%、「どちらかといえばそう思う」が 12.5%となり、評価は高くなっている。これは、教員が常に園児の体調に対する意識を高く持ち保護者と連携できている結果だと考える。
- ・保護者アンケート問 14「幼稚園は、子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。（園医と連携の上）」に対して、「強くそう思う」が 63.4%（前年比 8.9%増）となり高評価を得ているが、「あまりそう思わない」が 2.3%となっている。一方、教員アンケートからは問 13「幼稚園は、怪我、疾病の対応については園医に相談の上、行っている。」に対して、「強くそう思う」が 81.3%、「どちらかといえばそう思う」が 18.8%となり、「あまりそう思わない」・「そう思わない」

	は 0%であった。これらの結果からは、教員は、怪我などがあつた際に迅速に対処し、看護師に診てもらうなどの対応もとっているが、怪我や体調不良を幼稚園で起こさなかつた園児の保護者には、幼稚園がどのように対応しているのかが伝わりにくい部分があるのかもしれない。 ・保護者アンケートの問 15「幼稚園は、新型コロナウイルス感染症の感染予防（手指消毒、遊具の消毒、換気、分散降園など）に努めている。」に対して、「強くそう思う」が 78.2%、「どちらかといえばそう思う」が 20.4%の高評価となった。教員アンケートの問 14「幼稚園は、園児、保護者、教員の新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めている。」に対して、「強くそう思う」が 93.8%、「どちらかといえばそう思う」が 6.3%となり、高評価となっている。園での対応を保護者に伝え、理解を得ていることや、保護者参加の行事などが昨年度から増えたことで、園の対応が保護者によく見えたことも要因の一つとして考えられる。
今後の方策	・園児の心身の状態を把握し、教員間で共有して、その対応について話し合い、意識を高くもって園児の体調や心の変化に気づけるようにする。 ・園児が健康に安全に過ごすことができるように、園児そして保護者にも手洗いやアルコール消毒の大切さ、健康的な生活習慣についてなど園医の知見を含め伝えていく。 ・新型コロナウイルス感染症についての状況を把握し、文部科学省、兵庫県の基準や関西学院での協議を踏まえ、柔軟に対応する。 ・他クラスの園児との交流や保護者参加の行事など、感染対策をした上で可能な範囲で行い、園児が主体的に遊び、集団の中で様々な経験をし、充実した園生活を送れるようにする。

（自己評価）

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

全ての評価項目において、保護者・教員から肯定的な回答を得た。これらは、保護者アンケート問 17「幼稚園の教育・保育に満足している」に対して「強くそう思う」が 75.0%（前年比 9.6%増）、「どちらかといえばそう思う」が 22.2%（前年比 8.2%減）という結果にも反映されている。一方、「あまりそう思わない」が 2.8%であったことを忘れてはならない。保護者が、信頼感、安心感をもって園児を預けられる幼稚園であるように、教員同士のチームワークをさらに深め、保育の質を向上させ、園児一人ひとりが愛されている喜びを感じられる保育を実現させていきたい。

2022 年度の評価をふまえて 2023 年度に予定している評価項目、テーマ等

- ・キリスト教主義教育
- ・教育課程・指導
- ・教育環境整備
- ・保護者との連携
- ・安全管理

関西学院幼稚園には、2023年1月27日（金）の午前9時に伺いました。当時は雪が散らついており、子どもたちは教員の「滑らないように気を付けましょう」の言葉を聞きながら登園していました。登園時には、保護者（子ども）が「健康状態チェック表」を指定の箱に入れた内容を毎回、教員がチェックをし、また、教員が保護者と言葉を交わす姿が見られました。感染症対策に力を入れていると共に、保護者とのコミュニケーションにつながる良い習慣であることが分かりました。

2022年度の5つの評価項目については、園全体で努力されていることが園見学からも窺えました。

評価の視点からは、年々、教育環境の整備および保護者との連携が充実してきていることが分かります。どのクラスにも植物の栽培や水槽内での生き物の飼育が行われており、子どもたちはふとした瞬間にそれらを観察していました。また、子どもの生き物に対する自身の思いを語っている様子から、動植物を身近に感じられる環境は命を感じることができることが分かりました。

共通の保育内容としては「劇遊び」を行うことが決定していました。クラスの各教員は目の前の子どもの発達に合わせて様々な導入を取り入れ、子どもたちが自主的にかかわれるように選択権を子どもたちに委ねるなどの工夫が見られました。さらに、効果音を発することが可能な電子楽器の利用等、新しいことに取り組む様子から、各教員の特技を生かした保育を追求していることが分かりました。保育プログラムの実践に対する教員の努力はおおいに評価できます。

保護者・教員アンケート結果からは、おおむね良好であることが分かりました。アンケートの記述に、「幼稚園は、友だち同士が認め合い、力を合わせる楽しさ、喜びを味わうまでのプロセスを大切に保育をしている」とあるように、自由活動での小集団遊びで子どもたちは、小競り合いを経験する中で、自分の気持ちを言葉で丁寧に相手に伝え、また相手の気持ちになってみて考えるという、心の育ちを見る機会がありました。子どもたちは声を荒げることなく、「〇〇さんは、そうだったのね」という他者を気づかい寄り添う言葉から、日常的に教員が個々の子どもを大切にするとこの考え方が反映しているものと判断しました。

保護者アンケートの結果からは、おおむね肯定的な回答が多いものの、否定的な数字もわずかに見られるので、その要因については今後の課題と考えます。また、教員アンケート結果の記述にもありましたが、「教員はキリスト教主義教育の理念を共有しているか」という質問に対して、「あまりそう思わない」という回答がありました。この回答は教員ご自身のことを指しているのか、全体的なことなのかは不明ですが、いろいろな立場の教員がいることを鑑みて、対面での話し合い・確認が必要かもしれません。問9の「幼稚園は、教員の教育・研究の為の環境づくりに努めている」という回答に対して、「あまりそう思わない」の比率が他と比較して高いようです。教員が研修に参加される等、努力されていることは分かりましたが、さらに検討の余地があるといえるでしょう。

今回の訪問時は雪が降る寒い日でしたが、園長はいつもと同様に正門で子どもたちに声をかけながら出迎え、明るい挨拶を保護者にも行われる姿を拝見しました。このような登園時と降園時の声掛け、また毎朝子どもの体調・欠席確認の共有は、保護者にとって大きな安心感につながると思いました。

具体的な取組を詳細に振り返り、全体をとおして適切に自己点検・評価が行われています。保護者アンケートは全ての質問項目において、前年度より肯定的回答が増加しました。保護者との共通理解のもと、保育活動の充実が図られたことは高く評価できます。

毎年の評価項目に設定されている「キリスト教主義教育」は、過去3年（2020年度～2022年度）にわたって、「B」評価となっています。教員アンケートの問1「教員は、キリスト教主義教育の理念を共有している。」について、「強くそう思う」の回答が減少（前年比17.9%減）となったことが一つの要因とみられますが、保護者アンケートの問3「幼稚園はキリスト教主義教育の考え方を、保護者と共有している。（日々の保育の伝達、礼拝、保護者会、手紙等）」では「強くそう思う」「ど

ちらかといえそう思う」の肯定的回答が 99.1%を占めており、非常に高い評価を得ています。

今年度より新たな目標として設定された「園児が自分と他者との違いを知り、理解し合い、『共に生きる』ことを学べる保育をする」ことは、「個」を尊重する保育の実践をとおして、共に生きる力を育む保育であると考えます。これは、関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” を根底に据えた教育の実践につながっています。教員アンケートの問 18「私は、関西学院のスクールモットー “Mastery for Service” に共感している。」、問 19「幼稚園は、『“Mastery for Service” を体現する世界市民』の育成につながるよう目に見えない『心の教育』を大切に保育を行っている。」について「強くそう思う」の回答は、前年度より増加し（問 18：73.3%→81.3%、問 19：86.7%→87.5%）、いずれも高い自己評価が得られました。このことは、“Mastery for Service” の精神が、関西学院幼稚園の保育の根幹に根付いていることを示しているのではないのでしょうか。「今後の方策」に記載された取組が実践され、キリスト教主義教育の理念の共有がさらに深まることを期待します。

「保護者との連携」の自己評価は、「B」にとどまりましたが、保護者との交流を大切にしている関西学院幼稚園の保育は、大いに評価できることだと思われます。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、Zoom を活用したオンラインによる個人懇談、対面によるクラス懇談会、保育行事等、今年度も保護者へのきめ細やかな働きかけがみられました。今後は、アンケート調査の肯定的回答がどの程度で「A」または「A+」となるのか、指標の具体的な目標値を掲げることや「保護者との連携」に関する新たな評価目標の設定を検討することも必要であると思われます。

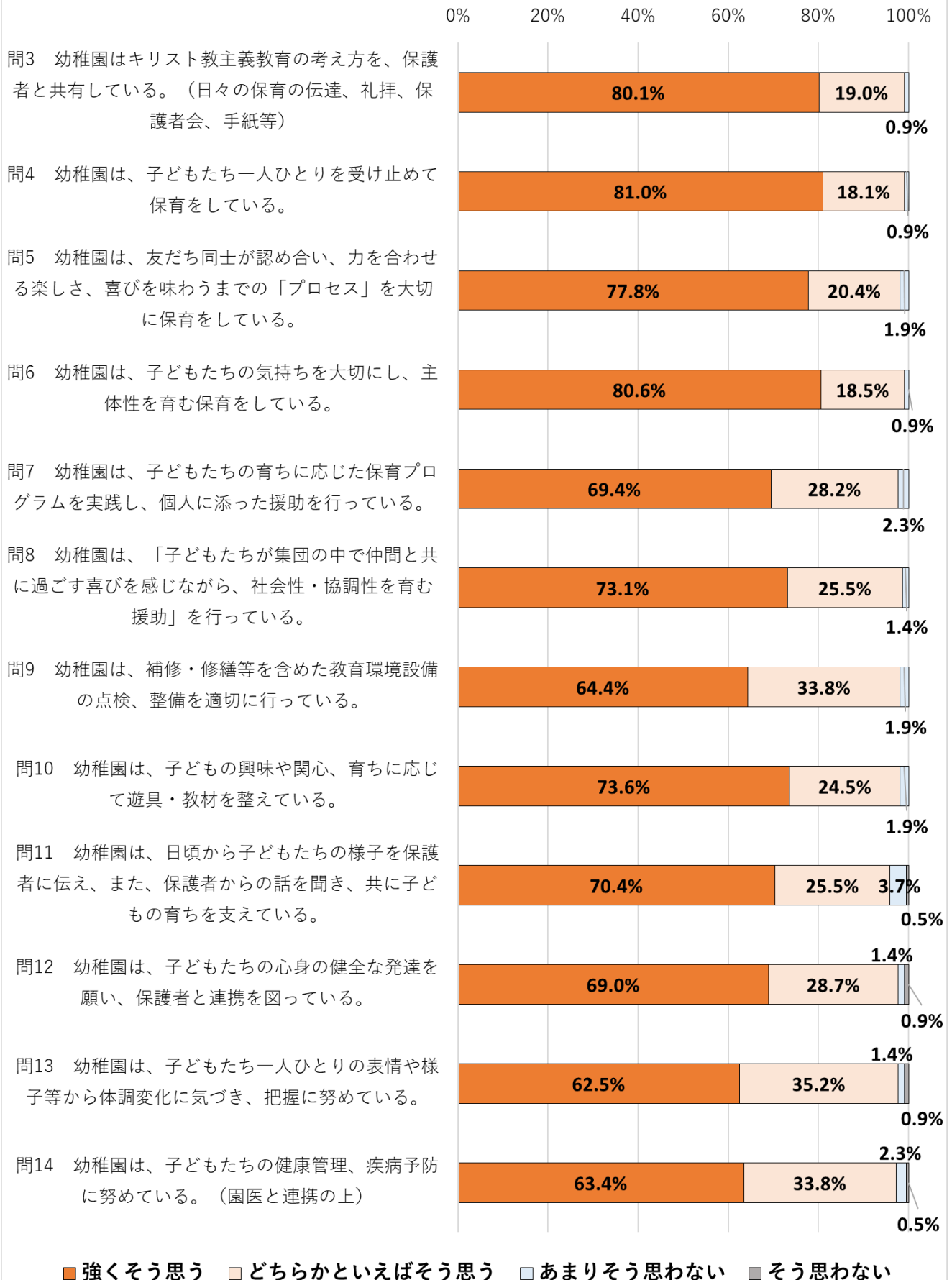
教員アンケートの問 9「幼稚園は、教員の教育・研究の為の環境（学会・研修会への参加も含む）づくりに努めている。」では、「強くそう思う」の回答が全ての質問項目の中で、最も低い数値（56.3%）となりました。この結果と、問 15「教員は幼稚園に勤めている事に誇りを持っている。」、問 16「教員は向上心を持って幼稚園に勤めている。」の肯定的回答（強くそう思う）が前年度より減少したことの関連をみていく必要があります。園外・園内の研修会において学びを深める機会を全教員で共有するとともに、教員の優れたチームワークで帰属意識を高め、保育の質の向上につなげていくことを期待します。

「安全管理（新型コロナウイルス感染症対策）」では、今年度も教員、園医、保護者、保健館等の連携のもと、園児の健康と安全が守られたことが示されました。コロナ禍が続く中、日々の保育の内容や行事を検討し、子どもを主体とした保育が展開されたことは大変評価できます。個々を大切に丁寧な関わりが、豊かな保育の活動につながっていることがわかりました。

2022年度 学校評価アンケート集計結果

幼稚園・保護者（回答率 105.9% 回答216人/対象204人）

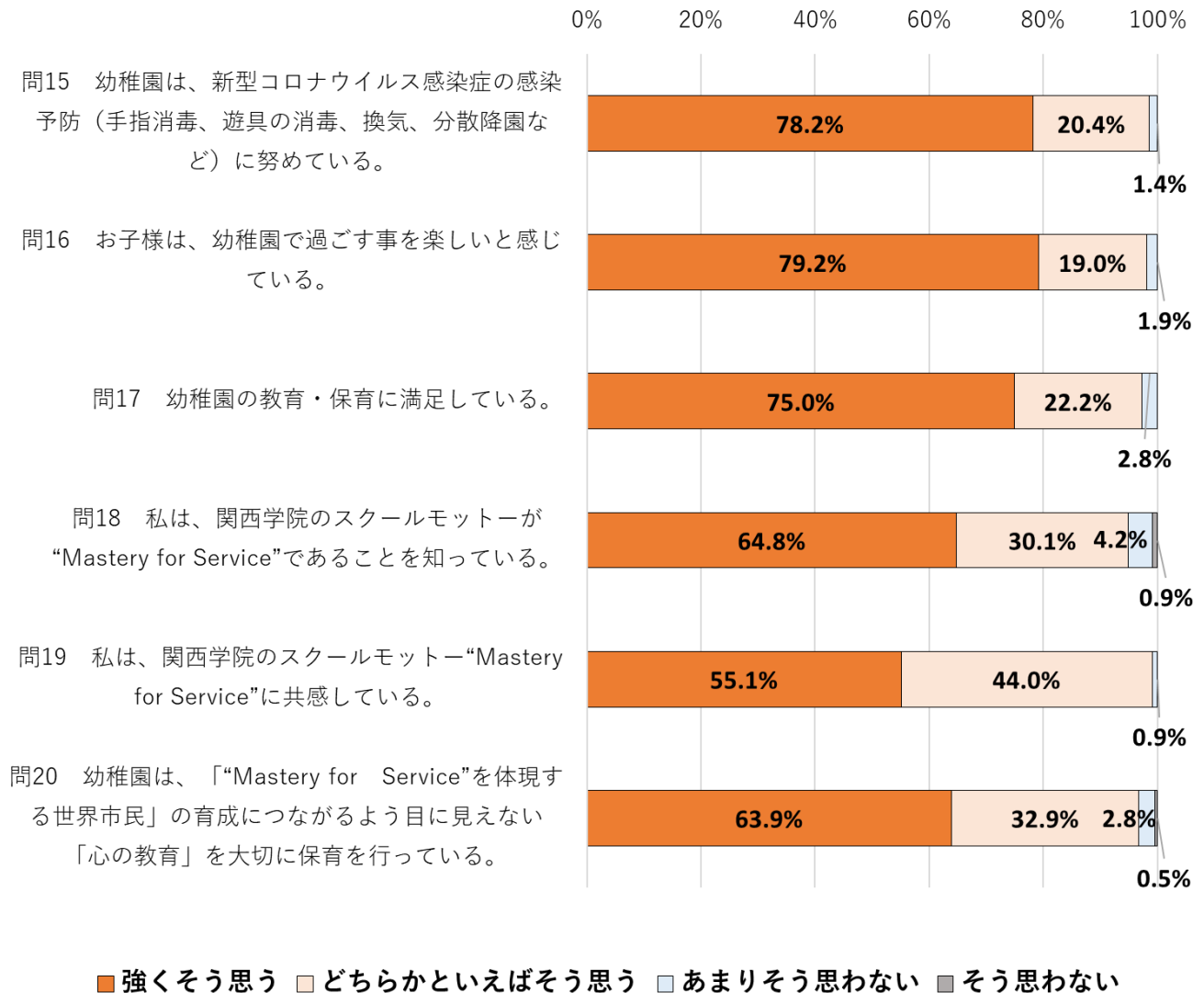
※お一人の園児に対して同一ご家庭から複数回答いただいたケースがあり、
100%を超える回答率となっています。



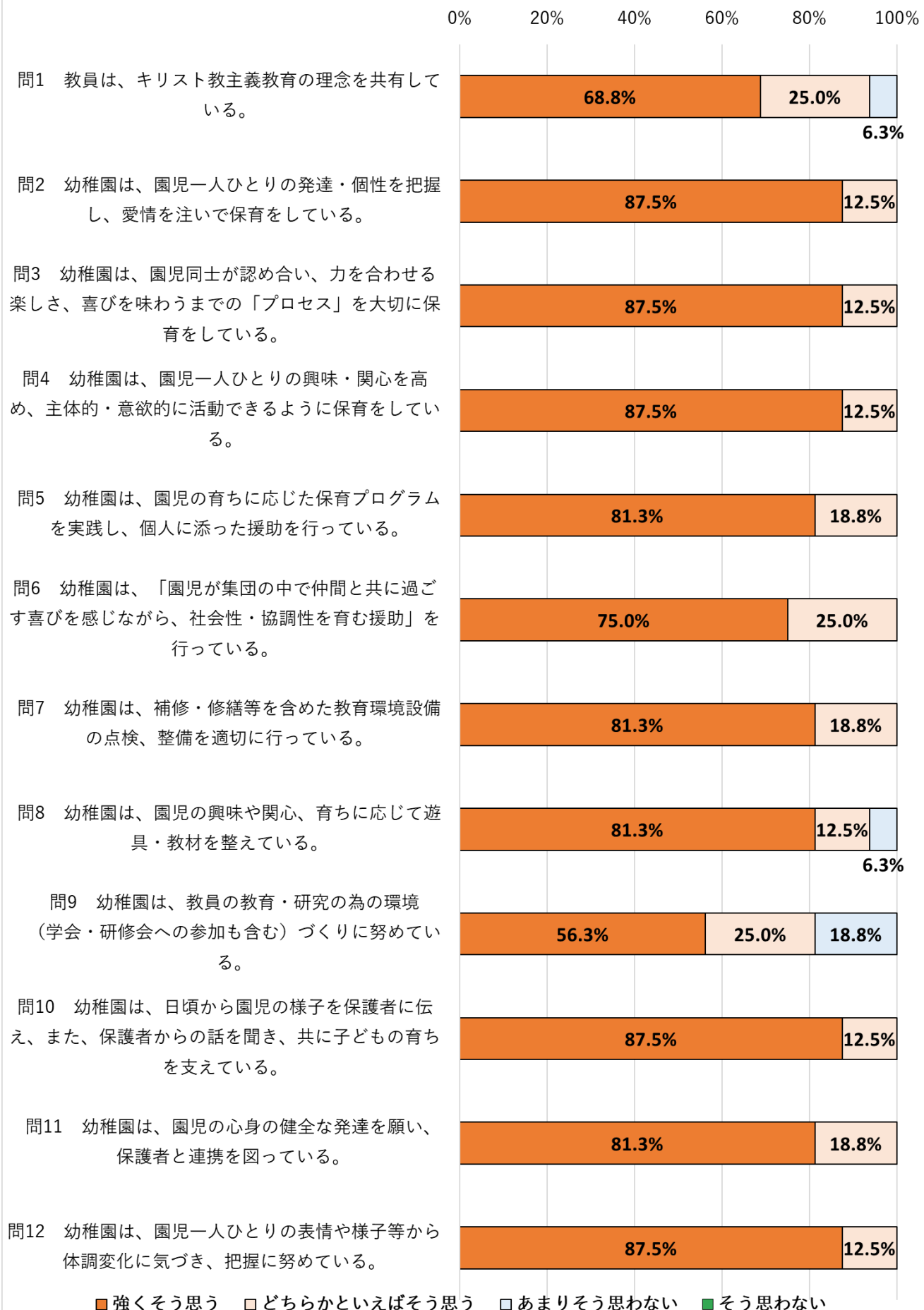
2022年度 学校評価アンケート集計結果

幼稚園・保護者（回答率 105.9% 回答216人/対象204人）

※お一人の園児に対して同一ご家庭から複数回答いただいたケースがあり、
100%を超える回答率となっています。



2022年度 学校評価アンケート集計結果
幼稚園・教員（回答率100% 回答16人/対象16人）



2022年度 学校評価アンケート集計結果
幼稚園・教員（回答率 100% 回答16人/対象16人）

